

# 令和5年度 第1回 江東区みどりの基本計画推進会議への意見書

日 時 令和5年9月6日(水) 14:00~16:00

場 所 江東区文化センターホール棟2階展示室

## ◆議題1 各事業進捗について

主なご意見
コロナ禍で休止されていた事業内容を少しでも早く進められるよう、区民を巻き込んだ活動を実施頂き、CIGの活動をたくさんの人に浸透して行って欲しい。
「3 安全・安心なまちづくりプロジェクト」の重点プロジェクト「公園改修事業(防災機能強化)」について、グリーンインフラの観点から重要と認識しています。緑地を活かした雨水対策などは検討項目に入ってくる可能性はありますでしょうか? 代表技術である雨庭(レインガーデン)は、国土交通省の流域治水にも位置付けられており、民間企業でも取り組みが活発化しています。世田谷区や京都市、札幌市などでもモデルガーデン整備などが始まっています。 「4 みどりのなかの都市 CITY IN THE GREEN 魅力発信プロジェクト」の重点プロジェクト「CIG 民間緑化推進事業(江東区みどりの情報の発信)」について、区報や区ホームページ、SNSなどを通じて発信が試みられていると認識しています。発信された情報のうち、民間主導の取り組みはどの程度含まれていましたでしょうか。民間主導の取り組みのなかにも CIG 推進に貢献する活動も増えており、区として積極的に支援できる仕組みがあると良いと考えています。
毎回非常に多岐にわたる事業について丁寧にご説明下さり、有難うございます。区役所の皆さんは慣れていらっしゃるのかもしれませんが、私などはそれぞれの事業を目で追うのに精一杯になりがちでした。例えば河川や運河沿い、橋台敷きなど複数の事業の内容を、関連性のつけられるものを推進係の方でまとめたいただけると、もっと視覚にイメージしやすく分かりやすいと思うのですが、グルーピングすることは難しいでしょうか。

## ◆議題2 令和5年度みどりに関する事業について

主なご意見
当日も意見として出ていましたが、組織ごとの縦割りではなく、地域やジャンル(子育て、スポーツ、環境など)で分類した方がわかりやすいと感じました。MAPへの反映も視野に入れて、活動場所の記載もあるといいと思います。推進会議での共有だけでなく、区民等に公開することによって、かなり有用な資料になると思います。
江東区内でこんなにたくさんの活動をしているとは知りませんでした! とても魅力的なイベント盛りだくさんなので、区報以外に SNS や LINE を活用して随時イベント告知をして頂きたいです。仕事育児と忙しくしている中で区報は見逃しやすく、電車移動中などでの SNS チェックが習慣化しているため。また、イベント申込方法についてですが、往復ハガキや FAX での申し込みは現代の家庭では FAX 機を持っておらず、手間がかかるので、全てのイベントをネット申し込みを出来るようにして欲しいです。
みどりに関する事業について本当にたくさんの取り組みがされていること、改めて素晴らしいことだと感じました。今後、取り組み主体や関連団体に企業がよりかかわっていけるとさらに広がりがあると感じました。 国際目標としてネイチャーポジティブへの関心が高まっており、民間企業のなかでも行政や地域と連携してみどりに関する取組を行いたいというニーズが拡大しています。

### 主なご意見

先日も申しましたが、スポーツと緑、舟運や船着き場と花壇といった様に、それぞれの事業を関連づけて見る事で、緑にいつそう広がり可能性が出てくると思います。  
また花や緑には管理に多くの労力が掛かるものです。関係者が増えることは、そういう点でも効果が出るのではないのでしょうか。

#### ◆議題3 江東区みどりの基本計画推進会議部会の活動報告について

### 主なご意見

副会長がご指摘いただいているように、月一回、定例的に活動を継続すること自体がすばらしいと思います。そのうえで、活動が一向に進んでいない印象を受けました。また、意見聴取など、同じことを繰り返しているようにも思え、いい活動、いいメンバーなのに「もったいない」と感じています。

区民委員をきっかけに参加させてもらっている部会ですが、毎回学ぶことが多く、とても良い機会を頂いております。みどりに関心のある区民も参加出来るような機会があると、江東区のみどりを大切にしているという思いが届きやすくなるのではないかと思います。CIGの活動は少しでも多くの人に知ってもらわなければならない活動だと思っています。

区や市民団体・NPO、指定管理者、事業者が集まって産官民が集う貴重な場ができていると感じています。メンバー同士の対話を通じて、相互理解や情報の共有・集約、連携も進んできていると考えています。一方で、定例会議や連携イベントなどメンバーの有志に委ねられているという課題もあります。また、部会で蓄積された議論や活動が対外的には見えにくくなっている面もあります。貴重な連携の場を持続的に運営・活用していける仕組みと対外的な情報発信の仕組みが重要と考えています。

それぞれの持つ興味や経験の違う部会員が、緑化についての意見を出し合い、緑を増やす手法を検討しています。素人ではないので、具体的な意見集約ができるのがいいと思います

#### ◆議題4 江東区緑化指導のあり方検討委員会について

### 主なご意見

昨年度に取り組まれた内容から何が変わったのかわかりませんでした。今までの報告という位置づけだったのでしょうか？

みどりを増やす上でもトラブルは避けたいので、こういった委員会があることはとても素晴らしいと思いました。ただ、区民への認知が足りていない現状、管理が手間であることを理由に、今あるみどりを気軽に伐採してしまっている現状があるので、被害だけではなく、手間に思うことを解決するためのみどりと共存の仕方などを提案出来たらいいのではと思います。例えば高齢で管理が難しい場合は周りが助けて剪定をする仕組み作りや、みどりを増やしてくれていることに感謝している事を伝えるため、感謝状を送るなど？なんとなく生息している自宅周りのみどりに目標緑化率が支えられている事をまずは知ってもらいたい！と思いました。

既存樹木の伐採抑制についてインセンティブは継続的に検討が必要と考えています。市民緑地認定制度のような土地所有者や区民にもメリットがある仕組みもできていますが、活用に向けた検討状況などを教えてください。  
緑化指導における生物多様性配慮の対応状況を教えてください。「生物多様性に配慮した緑化ガイド」のように江東区が先駆的に進めてきた仕組みを活用・拡充することで、官民ともに関心の高まっている「ネイチャーポジティブ」への対応をリードしていけるように考えます。

### 主なご意見

江東区は人口の8割が共同住宅住まいという事で、緑化についても集合住宅の役割が大きいと考えています。建築申請の時には緑化指導を厳密にやってくださっていると思いますが、その後の生育管理についても見守りやアドバイスをする必要があるのではないのでしょうか。そのためにもマンションの管理組合や自治会が行っている建物の長期修繕計画と同様に、将来どんな緑を創っていくかについても、管理組合が緑の管理をするためのメンテ費を含めた長期緑化計画を作成してくれるといいと考えています。

#### ◆議題5 陳情に関する意見聴取について

### 主なご意見

推進会議で出ていましたが、資料の画像が従来からある手法であるため、この形でやるのか？ということには疑問を感じました。部会を活用、地域の方を巻き込んで、など、やり方によっては、地域振興やCIG普及啓発につなげられる機会になると思いますので、前向きに考えてほしいですDXの視点も重要だと思います

区民からこのような意見があることがまずとても素晴らしいことだと思います。区内に同じくみどりを思う人がいることは単純に嬉しくなります。

今後、こういった意見がどのように形になっていくのか、とても興味が湧きました。区民のみどりへの意識が高まり、たくさん意見が出て盛り上がるような未来があるといいなと思います。会議の場では全体像が見えず、この案が今後どうなっていくのかがわからなかったのが、区民の意見はどこで議論され、反映されているのか、事例を区報などで紹介してもらえると意見も出しやすいのではと思いました。

植物の名前を知ることが、緑に親しむ第一歩と考えています。いただいた資料にある名板はそうした意味でいいと思います。予算がない場合、江東区全体が植物園ととらえて、名前を付けるワークショップをしてもいいですね。

#### ◆自由記載（補足など）

### 主なご意見

緑被、緑視等は、みどりの基本計画の基本的な目標で、大きな話だと思います。“ついで”のような形で報告するのではなく、分析を含めて、しっかり議題として議論した方がいいと感じました。また、今回の調査を踏まえて、今後の取り組みをどう進めていくかということになると思いますので、とても重要なデータなのでは？そうした意味でももう少し重く捉えて欲しかったです

市民委員の方から「管理できないからと樹木が切られてしまった」という衝撃的な発言がありました。せっかく植えられた樹木が切られてしまうという事は、環境上まずいことですし、“緑一杯の都市を創ろう”という江東区のスローガンを覆すことです。

そこで出前植栽管理セミナーを実施してはどうかと考えました。実際に自分がマンションや戸建て住宅の植木の手入れ講習を実施した経験では、さわれないものだと考えていた自分たちの家の植木の手入れがいかにも楽しいかが分かってもらえ、お隣さんとお互いの植木情報の交換を通じて、その後の管理にも効果的だという結果をもたらしたので、如何でしょうか。